

校長室の窓から（・、）「おはようの魔法」——見守り隊の「のーじー」に感謝を込めて

朝の通学路。ランドセル、カバンを背負った子どもたちが歩いてきます。元気に友達と話しながら歩く日もあれば、少しくつむきながら歩いて来る日もあります。昨日の失敗、友達とのすれ違い、勉強の不安、家庭でのややもや……。それぞれの胸に、言葉にならない思いを抱えて。そんな子どもたちに、変わらずに届く声がありました。「おはよう！」そして、にこやかな笑顔と、あたたかなハイタッチ。今年7月に88歳を迎えた見守り隊の、“のーじー”こと宣安さんは、約20年もの間、毎朝、子どもたちの登校を見守り続けてくださいました。

子どもたちがどんな気持ちで登校する日も、変わらない笑顔と声かけが、子どもたちの心をそっと軽くしてくれました。やる気が出ない日も、友達とうまくいかない日も、受験に不安を感じる日々も、親とケンカしてしまった朝も——。のーじーの存在が、子どもたちに「大丈夫だよ」と語りかけてくれました。子どもたちにとってその安心感は、言葉以上に深く心に染みるものだったと思います。ハイタッチの瞬間の子どもたちの笑顔、時々「おはよう！」が「グッドモーニング！」になる、のーじーのアレンジ。親でも教師でもないのーじーの存在が、地域の力で子どもを育てる教育の大切さを、静かに、でも確かに伝えてくれていたように思います。その温かなまなざしと「おはよう」の魔法は、子どもたちの記憶の中でいつまでも生き続けます。



毎朝子どもたちを見守り、支え続けてくださる見守り隊の皆様に心より感謝申し上げます。